

文=山下薫 text:Kaoru Yamashita 写真=平野愛 photo:Megumi Hirano



右)「Clash chair」。座面と脚部のパーツをぶつかるようにして結合しているのが、Clashと名付けられた。2003年制作。問:アクタス Tel:03-5269-3208。左)「Uni」。2008年度ノルディック・デザイン賞受賞。2007年制作



「Graphic Concrete」
コントラストでグラフィックを表現 2000年制作

日本について聞いてみた、4つの質問

- Q1:影響を受けた日本人のクリエイターや作品はありますか?
A:「安藤忠雄さんのコンクリートを使った建築。日本にある彼の建築物をこの目で実際に見てみたい。今回の来日では残念ながら時間がなくて行けないんです」
- Q2:好きな日本の文化やプロダクトは?
A:「障子。今回デザインしたテキスタイルは障子の透け感をイメージしたもの。光と影を上手に操る障子は素晴らしいと思います」
- Q3:海外出張で必ず持っていくものはありますか?
A:「家族の写真です。ケータイで撮った子どもの写真は元気の素。日本の展覧会后、チェコとブタペストでも開催するんですが、そのときの出張でも必ず持って行きます」
- Q4:おみやげは何を買う予定ですか?
A:「日本茶を買おうかなと思っています。あと子どもにハローキティのグッズも」



「木や板を重ねて接着しプレスして作り上げる成形合板を用いていること。そして、ミニマリステイク(最小主義)などところが特徴のひとつだと思います」

フィンランドの新進デザイナー、サムリ・ナーマンカさんは北欧らしいデザインとはという質問にこう答えた。ミニマリステイクが故に個を主張し過ぎない。どんな空間にも置かれても、またどんなアイテムと一緒に並べられてもハーモニーのように美しく響き合えるのだという。

東京デザイナーズウィーク期間中に東京・新宿のOZONEで自身の展覧会「アートアンド・インダストリー展」が開催された。来日は3回目だが、日本での展覧会開催は初めてだ。今回展示されたチェア「Clash Chair」は、ナーマンカさんがいう。北欧らしさを表現した象徴的な作品のひとつである。ミニマリステイクであることを追求した結果、座面の成形合板とステンレスのフレームを接続するネジがまったく見えないようにデザインしたのだ。そのことをよりわかりやすく伝えるために、天井から吊るした棚の上に展示した。いつもと違った角度や視点でチェアを眺めるという空間演出。それはネジが見えないデザインであることはもちろん、座るという機能性とオブジェにもなりうる美しさは融合できるというアピールにも繋がった。

ナーマンカさんはインテリアやプロダクトのほか、環境を対象にしたデザインも手掛ける。活動領域が広いということも、今回の

展示で伝えたかったことのひとつ。木や成形合板を使用した家具のほか、キッチンアイテムや初のテキスタイル作品も公開された。特に注目なのは、コンクリートの表面を加工して作られたアート作品だ。これはナーマンカさんが科学者や印刷業者などと4年の歳月を費やし開発した「グラフィックコンクリート」という特許技術を用いたもの。無機質になりがちなコンクリートの表面にグラフィックデザインを施すという、木や成形合板とは異なる素材で、北欧らしさを表現している。

アブローチの仕方は違うが、ナーマンカさんの作品に共通していることは自然にやさしい素材でデザインすることだ。最近ではプラスチックに代わる100%天然で再生可能な素材を開発。商品化も決定した。今回の展示ではチェアをプロトタイプとして発表した。「開発した素材は自分だけではなく世界中の建築家やインテリアデザイナーにとってツールのひとつになってほしい」。環境や自然から生み出される北欧デザイン。それが美しいことは言うまでもない。

profile
Samuli Naamanka
1969年フィンランド生まれ。2004年にグラフィック・コンクリートの開発によりフィンランド外装財団によるエレベーション・ビルディング賞を受賞。2005年にはファニチャーデザイン・オブ・イヤーを獲得。
www.samuli Naamanka.com